



No. 9, April 2002

日本高等教育学会ニューズレター

Japanese Association of Higher Education Research

目次

- ・第5回大会のご案内
 - 第5回大会の開催について
 - 課題研究について
- ・編集委員会報告
- ・理事会報告
- ・事務局便り
 - 名簿作成について

- ・会費納入のお願い
- ・事務局移転について
- ・ホームページについて
- ・新入会員
- ・住所・所属変更
- ・退会者リスト

第5回大会の開催について

日本高等教育学会第5回大会

藤田幸男

準備委員会委員長

会員の皆様には、すでに2回にわたり、ご案内いたしましたように、本年5月25日(土)、26日(日)の2日間愛知学院大学において第5回大会を開催いたします。希望に満ちて21世紀を迎えたものの、先の読めない状況が続いておりますが、「21世紀は20世紀の単なる延長であってはならない」という共通認識に立って日本の大学の進むべき道を皆様と探っていきたくと念じております。

愛知学院大学は本年大学開学50年を迎えます。日本高等教育学会の第5回大会が開催されるのを機に、「正師を得ずんば、学ばざるに如かず」という道元禅師の教えを21世紀の高等教育にどのように活かすかを改めて考えたいと思っています。

なお、大会についてのお問い合わせは、下記の準備委員会までお願いいたします。

〒470-0195

愛知県日進市岩崎町阿良池12

愛知学院大学 情報社会政策学部

日本高等教育学会 第5回大会準備委員会

TEL:05617-3-1111 (内線 611・651) 竹市

FAX:05617-3-4403

E-mail:jimu@psis.aichi-gakuin.ac.jp

大会日程

5月24日(金)

特別講演「子供のころからの思い出と教育への想い」

名古屋大学 松尾 稔 総長

5月25日(土)

受付 9:15より

自由研究1 10:00～12:00

自由研究2 13:00～15:00

課題研究1・2・3 15:15～17:45

1. 「大学設置形態の再検討」

司会 山野井教徳 (広島大学)

2. 「学生層の多様化・流動化と大学教育」

司会 濱名 篤 (関西国際大学)

3. 「短大の将来—コミュニティ・カレッジ構想—」

司会 館 昭 (大学評価・学位授与機構)

懇親会 18:30～20:30 学院会館 (大学キャンパス内)

5月26日(日)

受付 9:15より

自由研究3 10:00～12:00

総会 13:10～13:40

シンポジウム 13:45～16:30

「大学の構造改革」

司会 天野郁夫 (国立学校財務センター)

合田隆史 (文部科学省)

阿部美哉 (國學院大学)

奥野信宏 (名古屋大学)

河村能夫 (龍谷大学)

課題研究について

課題研究Ⅰ 「大学設置形態の再検討」

現在、国公立大学の法人化、公設民営化、あるいは国立大学の統合・再編成、21世紀COE(トップ30)等の政策などに見られるように、構造改革が一段と進行している。なかでも構造改革を基本的に規定する設置形態のあり方は今後の我が国の大学のかたちを模索する重要な課題である。

本研究課題では、設置形態とは何か、その定義や基本的な問題を踏まえ、大学設置形態とガバナンスや財政問題等に言及する。法人化に伴う大学の管理運営問題、教育や研究の公共性と大学財政支援問題は、これからの設置形態と高等教育政策と不可分の関係にある。大学の市場化やプライベート化の文脈にあって、大学設置形態とガバナンスの自立性や財政支援問題を教育と研究の公共性という公事性の視点から検討したい。

我が国のトライアングルの設置形態は、とくに大学の管理と財政面等に特徴づけられてきたが、財政基盤1つ例にとっても、将来的には少子高齢化や国家・地方財政の逼迫

等による小さな政府政策というプライバイゼーションや知識社会への移行による国際競争を背景に、各設置形態の財政的基盤の構成は急激に変化する可能性もある。設置形態別にみた法人化のあり方や管理運営問題についての論議もきわめて中心的な課題になるだろう。以上、こうした趣旨から、今回は設置形態という切り口から第三の大学改革期における「大学の構造改革を考える」場として企画させていただいた。

本研究課題のメンバーと報告者は、金子元久氏（東京大学）、天野智水氏（長崎大学）、孫福弘氏（慶應義塾大学）（発表順）に依頼した。金子氏には国立大学の問題も含めて、国際的視点や設置形態の基本的な問題を、天野氏には、公立大学の視点からガバナンスと財政問題を、孫福氏には、私立大学の視点からガバナンスや財政問題等を、それぞれ報告していただく。当日のコメンテーターは大学人以外の立場から、澤昭裕氏（経済産業研究所）に依頼した。司会と企画は山野井敦徳（広島大学）が担当するが、各位のご協力を深くお願いする次第である。（山野井敦徳）

課題研究Ⅱ「学生の多様化・流動化と大学教育」

高等教育のユニバーサル化の進行は、入試の易化による学生の学力の多様化をはじめ、各大学が受け入れる学生の多様化を必然的に伴うものとなってきた。従来の、高校新卒で学力水準が一定レベルの均質な学生の受け入れに慣れ親しんできた日本の大学は、18歳人口減少が続く中、高校新卒者の学力低下だけではなく、留学生、編入学生、社会人学生など、より多様なタイプの学生の受け入れを余儀なくされている。このように「学生の多様化」が一層進行すれば、教育内容、教育方法、学習支援などにおいて、どのような対応を新たにしていかなければならないのか。

また、こうした多様化状況は、学生がいったん入学しても中退したり、他学へ転学していくという「学生の流動化」をもたらす可能性を秘めている。「今までの入学すれば卒業する」という「固定客」を想定した大学から「流動客」をも対象とする体制を日本の大学が取らざるをえないのかという問題である。WTOがらみで海外の高等教育機関の日本進出の可能性が高まりつつある中、コンソーシアムや単位互換による学生の大学間比較、留学生の目を通しての国際比較などをとおして、学生の多様化・流動化の影響と、そのことが日本の大学教育を変化させる契機となるかについて討議していきたい。

報告者としては、1) 馬越徹氏（名古屋大学）に留学生受け入れの課題について、アジア諸国における欧米の大学の進出状況と併せて、2) 森島朋三氏（大学コンソーシアム京都）には、同コンソーシアムの活動によって大学間比較の進んでいる京都地域における学生の意識変化と編入学の状況を、3) 川嶋太津夫氏（神戸大学）には、学生の多様化・流動化の先進国であるアメリカにおける Retention（継続率）や学習支援の状況を日本と比較しつつ、それぞれお願いした。多くの参加者に議論に加わって頂ければ幸いである。

（濱名 篤）

課題研究Ⅲ「短大の将来—コミュニティ・カレッジ構想—」

わが国の短期大学は戦後、大学は4年制という原則のもとでそれへの移行が困難な際の暫定的な処置として出発したが、実際には短期高等教育の積極的な需要に応える形で、特に女子の高等教育機関として発展してきた。しかし、男女間の学歴志向の高低の差異が縮小し、企業の雇用性向も変化し、また急激な少子化が進む中で、短期大学の多くが4年制に転換し、かなりの部分で入学者の定員を確保できないなど、危機的な状況が現出している。

一方、アメリカの短期大学は、戦後、それまでの大学の前期課程をになう編入教育に加え、半専門職的な職業教育、それに地域の文化をになう教養教育を提供する、年齢層を問わず住民すべてがアクセスできるコミュニティ・カレッジとして積極的に位置づけられ、発展し、一定の定着をみせている。また、カナダ等、他の地域でも同様の展開がみられる。

そうしたなかで、わが国の短期大学も、短期であるが故の機動性とアクセシビリティの良さを生かして、社会人の教育需要にも積極的に応える形で、アメリカのコミュニティ・カレッジのような機能をもつものとして展開が図れないかとの論が出現してきており、また政策の一部に取り入れられつつある。本課題研究は、日本の短期大学の歴史と現状とアメリカのそれとの比較を試みつつ、日本において、短大の将来像としてコミュニティ・カレッジを描くことが可能なのか、可能とすればそれはどのようなものなのか、そしてそこにいたる道程と方策は何かを追求するものである。

発表者：

- ・ 館 昭（大学評価・学位授与機構）（司会を兼ねる）
日本の短大の現状と短大CC構想の意義
- ・ 清水一彦（筑波大学）
アメリカ、カナダ等との比較からの短大CC構想の問題点と課題
- ・ 森脇道子（産能短期大学）
ビジネス系短大からCCを構想する
- ・ 関根秀和（大阪女学院短期大学）
リベラルアーツ系短大からCCを構想する

（館 昭）

編集委員会から

現在、学会紀要「高等教育研究」の第5集を編集中です。5月の年次大会の前には、会員の皆様にお送りできるように作業を進めています。特集テーマは、「大学の組織・経営再考」です。今日の大学改革を、組織・経営の側面から捉えようとするものです。楽しみにしておいてください。

なお、今回は11本の投稿論文があり、3本を掲載論文として採択しました。残りの論文にもなかなかの力作が多く、今回残念ながら採択できなかったものも、編集委員会から

送られた講評など参考にして次回の再投稿を目指してがんばってもらいたいものだ、編集者の立場から申し上げます。

(編集委員長 山本眞一)

理事会報告

第18回理事会が2001年10月27日(土)13:30-16:30に開かれ、以下の事項が報告・審議されました。

報告事項

1. 金子事務局長から事務局移転について、8月29日に広島大学より南部・小方の両幹事から東大への事務引継があり、事務局を9月1日付けで東京大学大学総合教育研究センターに移転したとの報告があった。
2. 山本編集委員長より新編集委員会を7月30日に開催し、別紙(資料1)のように、「高等教育研究」第5集の内容を決定したとの報告があった。
3. 事務の外部委託について
金子事務局長より、学会事務の一部を外部委託することで学会事務センターと打ち合わせ中であるとの報告があった。
4. 金子事務局長より、別紙資料5のように、会計報告があった。

審議事項

1. 第5回大会の準備状況について
大会校の藤田会員より、別紙のように、愛知学院大学に大会の実行準備委員会が発足し、第1回の会議が開催され、大会シンポジウムの全体テーマとして「大学の構造改革」を原案として進めているとの報告があった。これについて、審議した結果、大会の日程を2002年5月25日と26日の2日間とすることとし、具体的なシンポジウムの内容については、各理事が個別に大会校に意見を交換することとした。また、理事会を5月24日に名古屋市(場所未定)で開催することとした。なお、ラウンドテーブルについては、大会校主催の講演会の予定と重なるため、今年度は開催しないこととした。

2. 学会の活動、課題研究について
矢野企画担当理事より、別紙のように、課題研究について、企画研究委員会の話し合いの結果、課題研究のテーマとして3本を提案したいとの報告があった。また、金子事務局長よりこれまでの大会のシンポジウムと課題研究のテーマについて別紙のように報告があった。これについて、審議した結果、(1)大学の設置形態の再検討、(2)学生の流動化と大学教育、(3)短大の将来(いずれも仮題)の3本を課題研究のテーマとすることに決定し、引き続き、企画研究委員会で検討していくこととした。

3. 会員名簿作成について
金子事務局長より、別紙のように、会員名簿の作成の準備

状況について、報告があり、了承された。

4. 金子事務局長より新規入会および退会の申し込みについて、別紙のように報告があり、了承された。

事務局便り

名簿作成について

2002年度・高等教育学会の名簿を作成する予定です。詳細が決まり次第、ご連絡いたします。会員の皆様には、ご協力くださいますよう、お願いいたします。

会費納入のお願い

2001年度会費納入を受けつけております。未納の方は、既にお手元にお送りいたしました郵便振替用紙か郵便局備え付けの普通払込書用紙をご利用になり、下記振込先までお送りくださいますようお願いいたします。

口座番号 01320-9-2987

加入者名 日本高等教育学会事務局

事務局移転のお知らせ(再)

既にお知らせいたしましたように、日本高等教育学会の事務局は東京大学大学総合教育研究センターに移転いたしました。お問い合わせ等は、こちらまでお願いいたします。連絡住所等は、当ニュースレターの奥付をご覧ください。

ホームページについて

日本高等教育学会のホームページが引き続き公開されております。高等教育学会のネット上の窓口として、大会案内、会則等に加え、紀要の目次も掲載しております。学会への問い合わせの際にも、ご利用いただけます。アクセスをお待ちしております。

URL <http://www.soc.nii.ac.jp/jaher/>

訃報

本学会会員の瀧川直昭会員が、2001年9月29日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

新入会員リスト<<01・09～02・03>>

氏名 〒 住所 TEL 所属

住所・所属変更リスト<<01・09～02・01>>

氏名 〒 住所 電話 所属

日本高等教育学会ニューズレター No.9

発行日 2002年4月25日
発行所 日本高等教育学会事務局
事務局長 金子元久
事務局 東京大学大学総合教育研究センター内
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
電話 03-5841-2390 FAX 03-5802-3372

Email: jaher@he.u-tokyo.ac.jp
URL <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaher/>

印刷所 生々文庫サービス
〒151-0051 東京都渋谷区千駄谷3-13-22-410
電話 03-3478-4062, Fax 03-3423-4338, Email: yuwind@znet.or.jp